

日刊 勤労千葉

82.11.8
No.1189

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二九三五六・公衆電話三三二七二〇七)

国鉄千葉動力車労働組合

10月三里塚一反戦・反核闘争の高揚をうけつぎ

12月怒りのゼネストで反撃しよう

勤労「本部」革マル反動分子は、政府・国鉄当局の矢つぎ早やな「職場規律の厳正」「既得権剥奪」攻撃につぎつぎと屈服を重ねている。そればかりか、逆に闘う方針を求め、決起せんとする多くの戦闘的組合員に対しては、「いま闘うことは、組織破壊者だ、挑発者だ」とドウ喝し、闘いを圧殺し、当局の完全な親衛隊となり下っている。

われわれは、このような反動の側に転落した勤労「本部」革マル反動分子を勤労から一刻も早く追放・一掃し、国鉄労働運動の戦闘的再生をかちとらなければならない。

パス廃止攻撃に公然と屈服した 勤労「本部」革マル

十一月六日付の毎日新聞によると勤労「本部」は、国鉄当局の既得権剥奪攻撃の最大の攻撃としての「パス廃止」を認めたことを明らかにしている。

攻撃に 「本部」 勤労と屈服した 「本部」 早やばやと

この勤労「本部」革マル反動分子の「パス廃止」攻撃への屈服は、人勧凍結・仲裁々定凍結、行革一臨調攻撃への反撃として総評臨時大会をはじめ、各労組・単産が「国会山場での全一ゼネスト」体制へむけて奮闘している、まさにその矢先きに唯一勤労が鉄労などと一体となってゼネスト破壊へむけて反動的に動きだしたことを示している。

われわれ勤労千葉は、十・一一、三里塚闘争を突破口に、十・二一、二四反戦・反核闘争を闘い抜き、この力をもって、「五七・一一ダイ改」阻止、十二月ゼネスト貫徹をもって、今日の厳しい情勢を大きく転換しようとして闘い抜いてきた。

国鉄無料パス 廃止受け入れ 勤労方針

国鉄の無料乗車証(パス)全廃問題で勤労(八級重一委員長、約四万四千人)は五日までに、当局の廃止方針を基本的に受け入れる方針を決めた。

勤労の説明によると、これまでの労使交渉の結果、国鉄当局が二月一日から無料パスを廃止するという提案は、乗車証配布は職員にとつて入社時の条件であり、既得権のはく奪だが、当局の廃止方針は変わらないうため、裁判闘争に移行しても組合員の利益にならないとの判断に立ったという。

勤労「本部」

革マル反動分子は、この状況の中で、「パス廃止」攻撃に公然と屈服すること、一切を表明し、一切の闘いに徹頭徹尾敵対をくりかえし、政府・権力・当局の完全な先兵になり下っているのである。

われわれは、勤労「本部」革マルを絶対に許さず、追放・一掃をかちとらなければならない。

勝利闘争ジェット三里塚 / 砕粉革行・調臨

秋晴れの十一月三日、三里塚教会で、午前十時より、三里塚芝山連合空港反対同盟の故戸村一作委員長の三周年追悼式典が開かれました。

丸尾牧師の司祭により、故人を偲ぶ式典が進められ、戸村家の遺族・親族をはじめ、反対同盟の幹部、東京実行委員会、その他多数の団体・支援の代表など、式典の会場に入りきれない参加者は、外にあふれる程盛会でした。

勤労千葉からは、同日おこなわれた団結祭典の場からかけつけた、関川委員長が、勤労千葉を代表してあいさつをおこない、共に故人の遺業を偲びました。

故戸村委員長の想いで語る部

追悼3周年式典 おこなわれる

11月3日
三里塚で

故戸村一作 反対同盟 委員長



ありし日の戸村委員長

分では、北原事務局長が戸村委員長の遺志を継承して、空港粉碎、廃港まで断固闘う決意をあきらかにしました。さらに、主治医とし

ての深谷氏は戸村委員長の闘病生活の中での闘いの志しを語り、病床でおかつすさまじいまでの闘志をもった偉大な委員長の遺稿の中から

ら一部を引用して、「反対闘争は一切話し合いは必要がない。ただ敵に対する憎しみをもって闘うべきである」とのべて全参加者に、深い感銘をあたえました。

その後、参加者一同墓地にいき、献花をして式典が終了しました。

戸村委員長がなくなって、早や三年、この間の反対同盟にかけられた敵からの攻撃と、臨調一行革路線にみられる私達勤労千葉、いな、全国の闘う部分にかけられてくる大反動攻撃をみればあきらかなように、戸村委員長が病床にあつて私達によせられた、期待とその教訓をさらに今後の闘いに生かして闘い抜く決意をあらたにしよ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を